

ふるさと奥尻通信

平成25年6月28日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

賽の河原祭りの6月22日は決まって天気が良くない。今年も雨がぱらつき、曇天となった。石積み
の広がる稲穂岬はもの悲しい景色だが、より一層そう感じさせる。

特集 賽の河原地蔵の由来

6月22日・23日は奥尻三大祭りのひとつ、賽の河原祭りの日です。島の最北端、稲穂岬を会場に、奉納子ども相撲大会、ソフトボール大会など各種催しがあります。

岬先端には、一面に石積みが広がり、地蔵堂と幾本もの卒塔婆が建っています。これらは、海難事故犠牲者、水子、北海道南西沖地震犠牲者などの供養のために設けられたものです。22日夜には灯笼流し、23日昼には供物を積んだ船を流し、読教します。

現在では観光色の強いお祭りになっていますが、元々は地元の町内会で守ってきた慰霊の催しでした。そもそも、稲穂岬が現在のように供養の場になったのはいつのころからなのか、はっきりしたことは分かりません。それでも、『奥尻町史』によれば、明治20年に地蔵堂が建てられ、僧侶による供養が行われたと記してあります。この明治20年以前にお地蔵さんが建立されたことになり、その由来が気になるどころでしたが、あまり一般に知られていませんでした。今回、この賽の河原地蔵の由来を、稲穂地区の可香谷正二さん(76歳)に伺いました。



賽の河原



1対の古い地蔵



郵趣資料

明治34年の年賀状

明治29年の年賀状

明治初期の頃、灯台が設置される以前の稲穂岬は、暗礁がある上に、濃霧が発生する難所でした。当時、陸路の整備も不十分で、遠い集落間の移動にはもっぱら櫓舟を使う時代でした。

それでも、定期的に届くものに、明治4年(1871)にイギリスから導入された郵便制度にもとづく郵便物があり、電報や電話のない時代には唯一の連絡手段となっていました。この稲穂行きの郵便物を、稲穂岬からもっとも近い対岸、八雲町大成区の太田権現付近の民家に集めてもらい、定期的に舟を漕いで受け取りにいていたというのです。距離にして約18km、この困難な作業に、稲穂に住む(当時の地名は菰潤”こもま”、地元では”ゴオマ”と発音)中堀由太郎と神部豊太郎の2名が従事していました。ある日、太田からの帰り道に濃霧が発生し、すっかり迷ってしまいました。その時、舟の先に地蔵が現れ、その指さした方向へ進んだところ、無事に賽の河原に行き着くことができました。この話を太田で話したところ、「それは人助け地蔵だ」と言われ、地蔵菩薩像を一体分けてもらってきました。しかし、それから毎晩、2人は地蔵の夢を見るようになります。その後、実は地蔵は2体で1対だったことがわかり、もう1体も島に持ってきたところ、夢は見なくなったそうです。現在、地蔵堂の中央に安置されている古手の地蔵がこの時に太田から持ってきたものと推測できます。

奥尻で郵便取扱所ができたのは明治19年のことですから、舟で往き来していたのは、明治4年~18年の間と言えましょう。地蔵が持ち込まれたのはこの頃の出来事で、それ以降、賽の河原として石積みが行われるようになったものと推測できます。

☆郵便制度とハガキの歴史年表☆

1871年	郵便制度導入
1872年	郵便取扱所を日本全国へ展開
1873年	官製はがき誕生
1877年	万国郵便連合に加盟
2013年現在:192ヶ国	
1900年	私製絵葉書が許可される
1903年	絵葉書収集ブームが起こる
1968年	郵便番号制度開始
1998年	郵便番号が7桁になる
2007年	郵政民営化
2012年	日本郵便が事業展開



供養風景 昭和48年(1973)

新連載です。奥尻島に人類の痕跡が残されてから8000年余り。その時代、その時代で様々な人間ドラマがくり広げられたことでしょう。そんな島の歴史の1ページをふり返るのがこの企画です。その第1回は、奥尻が熱く揺れたナイスファイトの一夜を。

平成25年6月23日午後18:30、奥尻小学校体育館にて「どすこいプロレス in奥尻」が開催されました。島の名物男、満島章(三大祭り司会している人、町役場商工観光係長)引退試合と銘打たれた興行でしたが、賽の河原相撲参加でおなじみの、元力士でプロレスラーの維新力が仲間有志を募って奥尻に参戦してきたのです！出場選手は、「関節技の鬼」藤原嘉明、JWPの中島安里紗、倉垣翼、春山香代子の3チャンプ、ハードファイトの葛西純、悪役の井上京子、美形ファイターの華名ら総勢16名。今年は震災20年の節目、さらに来春学校統合のために閉館する奥尻小学校体育館でのラストイベントとなったことも、地元が沸いた要因となりました。島の未来を担う地元の子供も達にも本物のレスラーの強さとたくましさを見てもらい、強い体力と精神力を持った大人に成長して欲しいという、願いも込められていたようです。

のっけから、地元のファイヤーマン、菊地貴洋の場外乱闘と凶器攻撃に会場は騒然。その後の各試合も、プロらしい本格技を混ぜたコミカルな試合がつづき、観客を楽しませました。最後は全選手によるバトルロイヤルを決行。みごとに満島章が優勝して引退の花道を飾り、会場は大喝采。感謝を述べる挨拶のあと、男手で育ててきた息子の壘(るい)君から花束を受け取ると、観客は感動の涙を流しました。写真撮影：高山潤



満島章のローキック炸裂！



熱戦終わって どすこい！！

月刊 奥尻のつり 6月号

春シーズン後半戦です。カレイは引き続き釣れています。そろそろソイ、ハチガラなどの根魚の時期ですね。沖では簡単に40~50cm級が上がりますが、磯ですとバラツキがありますね。ハチガラ(ムラソイ)には色があって、金色のオウゴンムラソイ、オレンジムラソイなどがあります。まれに真っ赤なものもいますし、過去には真っ白な色素異常の個体も上がっています。刺身はハチガラが美味しいですよ！寿司屋に持ち込んで一杯。最高だね。



昭和奥尻生活詩 6回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

ろお冷鳥ご青朝向	一山弱船寒船	ど玉時船	
ま父い賊ろひのふうおにい	がい北がくど	んがくど	鳥
さ指に指に鳥空のん父か陽	ん風叫どん	け三	賊
る煙に触る賊	船とに	ん	つ
な草ぎつころ	がにつ	負れ	け
句んたら	静ぼけ	た	鳴
ひとら	かつる	ねよ	た
が固	につ	とど	り
すか	つて	動灯	出
る	いた	る	す
	た		
	あ		
	い		
	る		
	た		
	よ		

藤谷敏雄

し猿さ作釣まイ人漁防も災
たーす業りしル達師団ちが先
。顔にがに船たフ総さ員ろ発日
負海參も。エ出んはん生、
けの加す沖ンでなじ、し奥
の男しばにス、どめ日ま尻
かたてや出を消、、頃し港
つちいくて張火居役きた内
こ、ま帰いつ活場合た！で
よーし港たた動わ職え消船
海たしイリやせ員た防船
で。、カしオた、消は火

船舶火災で町民協力



置き土産の"笑顔"ボード

きセムす島のうがた民写しラに
土ンボ。民でどスい三真まさか六
産タ一七の、賽タ！○館しんけ月
をド月笑四のト張○ぶたがて二
くにが中顔日河ト○ろ。出、十日
れ写完旬が間原。り人じそ張函日
ま真成に撮で祭期切全えの写館から
し予はれたり間つ員く名真の館の
たネ定ウたくも中てをとも館谷三
よ。エよさあ、撮撮ー一を杉三
！の海ルうんつち影影。島開ア日
置洋力でのたよ会し島の催キ日

写真館がやってきた

テレビ取材を受けたんですけども、どうも大きなカメラは緊張していきませんね。なんだか言葉もキレイなものを選んだりなんかして。違和感ありありです。間もなく震災20年を迎えます。20年記念の展示物を作るにあたり、多くの町民の方に話を聞かせてもらいました。普段、笑顔を絶やさない人の裏側には、辛い思い出が隠されていることを知りました。

新米之記録(編集後記)

稲・奥・あ聞でボ越歴のま○
穂七尻七り記すツえ史昔す年学
ふ月島月ま事。トてをの。特芸
れ十津八す。ス当を生た写青別活
あ一波日。ク時あきど真苗展動と
い日館く。ラのてる、交区をして、
研く八ツ救た、交区をして、
修十月三帖物ネ者災て稲催、
ン末十一な資ル達を奥穂し震
タ日一どや展に乗尻地て災
！も新示スりの区い二

震災20年特別展示



賽の河原 昭和20年代カ